

福祉対策部・活動方針（案）

福祉対策部長 時田 始
福祉対策部付 増田 伸也

《活動目標》

1. 長寿を祝う会

平成26年度も前年度に続いて2年連続、長寿に対する表彰を行った。前年の課題であった非会員の長寿（80歳以上）にも賞状だけで表彰を行えた。平成27年度も引き続き、表彰を行い、参加者には生きる勇気につなげられるようにしたい。余興内容ももっと工夫を重ねていく。

「ひとりぽっちのろうあ高齢者をなくそう」という言葉通り、平成27年度はさらなる呼びかけを行い、参加者拡大を目指したい。

このイベントから日中活動の場として地域活動支援センター「らいおん千葉」の利用へつなげるようにしていきたい。

また、遠方の地在住の高齢者にはサテライト方式として各地域での地域活動支援センター設置を目指して働きかけるようにしていきたい。

2. 相談業務関係の推進や啓蒙普及活動を

社会資源へのつなぎ「指定特定相談支援事業」の役割

平成24年の制度改正の中で、相談支援事業が明確に位置付けられ、65歳以下の障害者サービスにかかるすべての社会資源（就労継続支援B型「らいおん工房」、地域活動支援センター「らいおん千葉」「らいおん香取」、介護ヘルパー事業など）を利用する場合は、相談支援専門員のケアプラン作成が必要なことから、千葉聴覚障害者センターが事業が認可を受けてある「指定特定相談支援事業」※に配置されている相談支援専門員が窓口となってケアプランを作成しサービスにつなげている。

※=<参考>

名称として「指定～相談支援事業」について、下記の3種あり、そのうち千葉聴覚障害者センターは①の認可を受けて実施している。

① 「指定特定相談支援事業」

→障害福祉サービス等（ヘルパー派遣、就労移行や継続支援（例・らいおん工房）、共同生活援助（例・らいおんホームそが）など）を適切に利用するための計画の作成

② 「指定一般相談支援事業」

→入所又は入院している障害者の地域における生活への移行や、障害者の地域での生活の支援

③「指定障害児相談支援事業」

→障害児通所支援を適切に利用するための計画の作成

もっと身近な「地域相談員」制度の活用化や活性化への推進

相談についてもっと身近な方として地域相談員があり、これは地域協会の会長もしくは役員の方によって県に登録されているものである。(国の身体障害者相談員が千葉県における“地域相談員”として登録されている) これこそ聴覚障害者の生活に密着していてすぐ気楽に会って相談できるというもの、これをもっと活用、活性につなげられるよう地域の聴覚障害者の方々へのアピールに取り組んでいきたい。

以上から、当対策部では、「相談事業について」をテーマとした学習会を設けるなどして、各地域協会へ「相談支援事業」へのつながりや聴覚障害者の社会資源につ

いての情報を周知徹底し、更に聴覚障害者のニーズに合った社会資源の更なるアピールを図っていきたい。

●ろう重複障害者施設への取り組みについて「つくる会」との連携を

ろう重複障害者の社会参加にも力を入れた取り組みが必要である。平成 26 年度には「暮らしの場」としてケアホームが開所されたことで、今後とも更なる展開として、千葉県全体でもろう重複障害者が安心して暮らせるように、長期的に「千葉県におけるらいおんコミュニティの長期計画（15 ヶ年）」があり、今後はまだ資源が設置されていない南総ブロック、葛北ブロックや総武ブロックにも地域活動支援センター設置計画を進められるように後押ししていきたい。

資金造成としての支援団体である「千葉県ろう重複障害者施設をつくる会」の活動に協力し、連携をしながら、ろう重複障害者のより良い暮らし、社会参加を目指して、各支部を通してそれぞれのブロックの活動に取り組を強化促進したい

☆ろう重複障害者つくる会のカンパについて

平成 16 年度はカンパ総額 1000 万台（つくる会独自のイベントの収益をはずせば 800 万台）であった。

理由は、当時の各市聴覚障害者協会それぞれの熱心な取り組みにある。平成 25 年度は 300 万台になっており、500 万台近くの差から、各市レベルの展開に課題があるように思われるが、平成 27 年度こそは各市レベルの展開へ働きかけるようにしていく。平成 16 年度のひとつの例として、カンパイコール休日にこだわ

らず、平日の夜でも駅前でカンパ活動し、その日が少額でも回数を重ねていけば、チリ積もれば山となるということがあげられる。

ここでは、地域協会が34あることからつくる会の行うブロック活動とは別にそれぞれの地域の協会で独自のカンパや行事での募金方法の工夫などを展開し地域レベルとして年に総額300万円台を目指したい。

※つくる会への収入がピークだった平成16年度（総額800万円台）と最近の平成25年度（総額340万円台）の行事カンパ、竹筒・1日100円カンパなど地域レベルの取り組みの有無によっては300万円台の差が表れている。（その他の差はブロックレベルのイベントが最近開催されていないことにあり、これも地域協会の力が不可欠ものである）
→参考に、平成16年度と平成25年度の対比表を付ける。

《事業計画》

- ・ 長寿を祝う会（9月13日（日））＜千葉聴覚障害者センター＞
アトラクションについては長寿の方に楽しんでいただき活力につながる内容
づくりなど工夫していく。

- ・ 学習会
※支部懇談会など、各地域協会が集まる場に学習会（特定指定相談支援事業やらいおんコミュニティ長期計画などの啓蒙普及）
又、千通研医療班と共同で、医療に関する講演会を考えて行く。

- ・ 「千葉県ろう重複障害者施設をつくる会」の取り組みへの関わり
各ブロックでの街頭カンパへの参加と各市聴覚障害者レベルのカンパ運動の展開への、取り組みを進める。
そして個人への募金箱として
 - ・ 竹筒カンパ
 - +
 - ・ 1日100円カンパ募金箱
 - +
 - ・ その他募金箱 } 目標は1万本配布

毎年10月開催の「秋獲祭」への協力

各支部、各地域協会の組織を通してつくる会会員拡大の働きかけ